

政策整理番号 4

評価シート(A)

対象年度	H17	作成部課室	保健福祉部地域福祉課	関係部課室	
------	-----	-------	------------	-------	--

A-1-1 政策と施策の関係・施策の体系:規則 § 6 1号関連

政策番号	1 - 1 - 4	政策名	誰もが暮らしやすいバリアフリー・ユニバーサルデザイン環境の整備
------	-----------	-----	---------------------------------

政策概要	障害者や高齢者、妊婦や子どもをはじめ、だれもが不便を感じることなく安心して生活できる環境づくりを目指します。
------	--

施策番号	施策名 施策概要	政策評価指標	達成度
1	バリアフリー・ユニバーサルデザインの意識啓発 障害者や高齢者を特別視することなく、すべての人が個人として尊重され共に支え合いながら安心して生活できる社会を目指します。	外出時に不自由を感じている障害者・高齢者の割合	A
2	誰もが利用しやすい施設や道路等の整備 だれもが安全かつ快適に移動や活動のできるまちづくりを目指します。	外出時に不自由を感じている障害者・高齢者の割合	A
3	誰もが利用しやすい情報の提供 だれもが必要な情報を取得したり、利用したりすることができるような環境を目指します。		
4	誰もが使いやすい製品づくり 年齢、性別、身体、国籍など、人々が持つ様々な特性や違いを越えて、できるだけ多くの人々が利用しやすい製品づくりを進めます。		
5	バリアフリー等を進める専門家、NPO、ボランティアの育成 様々な県民のニーズに対応するため、専門家、NPO、ボランティアによるバリアフリー等に関する活動を支援し、育成します。		

達成度:A(目標値を達成している), B(目標値を達成していないが、設定時の値から見て指標が目指す方向に推移している)
C(目標値を達成しておらず、設定時の値からみて指標が目指す方向と逆方法に推移している), ... (現状値が把握できないため判定不能)

A-1-2 県民満足度(政策)の推移:規則 § 6 1号関連

	第5回(H17)	参考:第1~4回の推移	第4回(H16)	第3回(H15)	第2回(H14)	第1回(H13)
重視度(中央値、点) A	80.0	重視度 A	70	72	75	75
満足度(中央値、点) B	50.0	満足度 B	55	53.5	55	56
かい離 A-B 【かい離度】	30.0 【非常に高い】	かい離 A-B 【かい離度】	15 【中】	18.5 【中】	20 【高い】	19 【中】
満足度60点以上の回答者割合(%)	41.5	満足度60点以上の回答者割合	47.1	45.1	46.8	-

かい離:極めて高い(40点以上),非常に高い(30点以上~40点未満),高い(20点以上~30点未満),中(10点以上~20点未満),低い(10点未満)

第5回県民満足度調査は調査票の様式を見直して実施しました。第1~4回の調査結果は第5回の調査結果と同列に扱うことができないため、参考記載としています。

A-1 施策群設定の妥当性:規則 § 6 1号	適切	概ね適切	課題有
-------------------------	----	------	-----

<p>A-1-1 【政策目的に沿った施策か】 適切 ・各施策の概要は上記のとおりであり、施策の実現のためには5施策全て引き続き必要である。 ・だれもが住みよい福祉のまちづくり条例の趣旨を踏まえ、バリアフリーの実現に向けて支援を要する。</p> <p>【施策の重複・矛盾点の有無】 適切 ・各施策は目的に応じて適正に設定されており、重複や目的の矛盾はない。</p> <p>A-1-2, A-1-3 【県民満足度・社会経済情勢から見て必要か】 適切 ・政策満足度のかい離は高く、本政策を必要と感じている。 ・高齢化の著しい進展を受け、バリアフリー社会を実現する上での基本となる施策1, 施策の優先度及びかい離が最も高い施策2の必要性を「大」とした。</p>
--

A - 1 - 3 一般県民満足度の推移と社会経済情勢(施策毎):規則 § 6 1号関連

施策番号	一般県民満足度調査結果(施策)			社会経済情勢に適合した施策か	必要性総括		
	優先度 (直近の3回)	県民が必要と感じているか()					
1	第5回 8.1%	4位	・本施策の優先度は 5施策中 4位である。	・施策の優先度は第4位と低いが、高齢化社会の著しい進展を受け、バリアフリー、ユニバーサルデザインの普及・意識啓発は、バリアフリー社会を実現する上で最も基本となる重要な施策である。	大		
	第4回 6.9%	4位	・本施策のikai離は 25.0点と 高い。				
	第3回 6.9%	4位	【結論】必要性: 比較的感じていない				
2	65.5%	1位	・本施策の優先度は 5施策中 1位である。			・施策の優先度は他の施策より著しく高く、ikai離も30点と非常に高い。 ・高齢化社会の著しい進展を受け、本施策の必要性は最も高く、「だれもが住みよい福祉のまちづくり条例」等の趣旨を踏まえ、引き続き重点的に施策の推進が必要である。	大
	66.0%	1位	・本施策のikai離は 30.0点と 非常に高い。				
	67.7%	1位	【結論】必要性: 非常に感じている				
3	12.6%	2位	・本施策の優先度は 5施策中 2位である。	・施策の優先度は2番目に高く、ikai離も20点と高い。 ・視覚障害者や聴覚障害者・高齢者は、まだ情報を得にくい状況にあり、引き続き施策を推進する必要がある。	中		
	13.0%	2位	・本施策のikai離は 20.0点と 高い。				
	12.0%	2位	【結論】必要性: 比較的感じていない				
4	3.0%	5位	・本施策の優先度は 5施策中 5位である。			・施策の優先度は低いが、ikai離は20点と高い。 ・個人の様々な特性を超えて、できるだけ多くの人が利用しやすいように配慮した製品の開発や環境づくりのための普及・啓発を引き続き施策として推進する必要がある。	中
	4.2%	5位	・本施策のikai離は 20.0点と 高い。				
	4.2%	5位	【結論】必要性: あまり感じていない				
5	9.7%	3位	・本施策の優先度は 5施策中 3位である。	・施策の優先度は3番目で、ikai離は30点と非常に高い。 ・他の施策を推進していく上でも、専門家、NPO、ボランティア等の人材育成は不可欠であり、今後も引き続き施策を推進する必要がある。	中		
	9.3%	3位	・本施策のikai離は 30.0点と 非常に高い。				
	8.9%	3位	【結論】必要性: ある程度感じている				

必要性のランク【結論】:非常に感じている > かなり感じている > ある程度感じている > 比較的感じていない > あまり感じていない

A - 2 政策評価指標群の妥当性:規則 § 6 2号

適切

概ね適切

課題有

【施策の有効性を評価する上で適切か】 適切

・政策評価指標「外出時に不自由を感じている障害者・高齢者の割合」は、障害を持つ県民や高齢者に直接アンケート調査をしており、県民の満足度を知る上で有効な評価手段であり、適切な政策評価指標と判断する。

【重視すべき施策に指標が設定されているか】 適切

・必要性「大」とした施策全てに指標が設定されており適切である。

A - 3 施策群の有効性:規則 § 6 3号

有効

概ね有効

課題有

評価シート(B) A-3-1「施策の有効性」から

視 点	政策全体	施策1	施策2				
政策評価指標達成度	有効	有効	有効				
県民満足度	概ね有効	概ね有効	概ね有効				
社会経済情勢	概ね有効	概ね有効	概ね有効				
全 体	概ね有効	概ね有効	概ね有効				

A 政策評価(総括):規則 § 6

適切

概ね適切

課題有

・A-1 政策の必要性は高いと判断する。施策の設定は妥当である。各施策によりソフト及びハード面を推進していく。

・A-2 指標は各施策の有効性を評価する上で適切である。

・A-3 政策評価指標は目標を達成していることから、概ね適切と判断した。

・A-1~3を総合的に判断し、「概ね適切」と判断した。

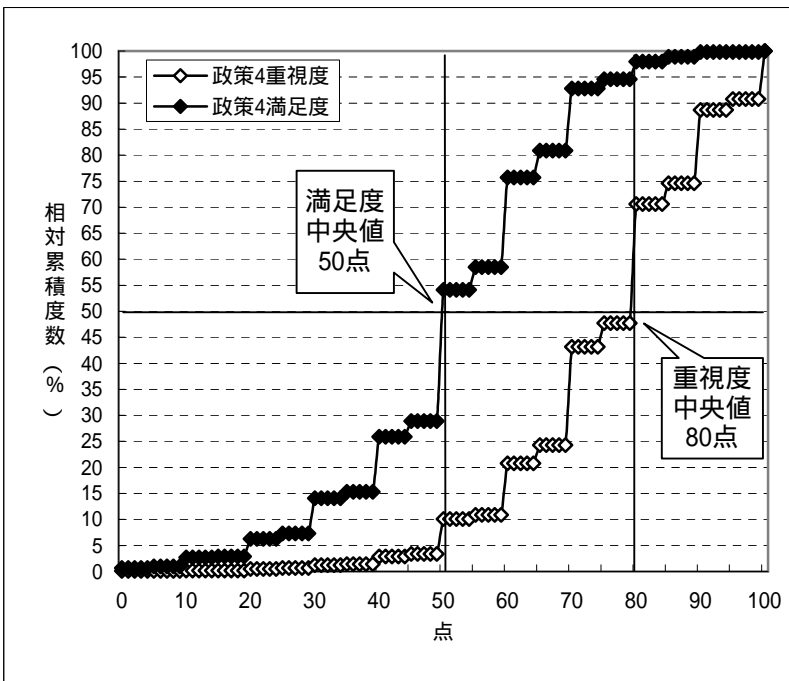
対象年度 H17

政策番号 1 - 1 - 4

政策名 誰もが暮らしやすいバリアフリー・ユニバーサルデザイン環境の整備

(1) 一般県民満足度調査結果

高関心度 87.4 高認知度 39.6



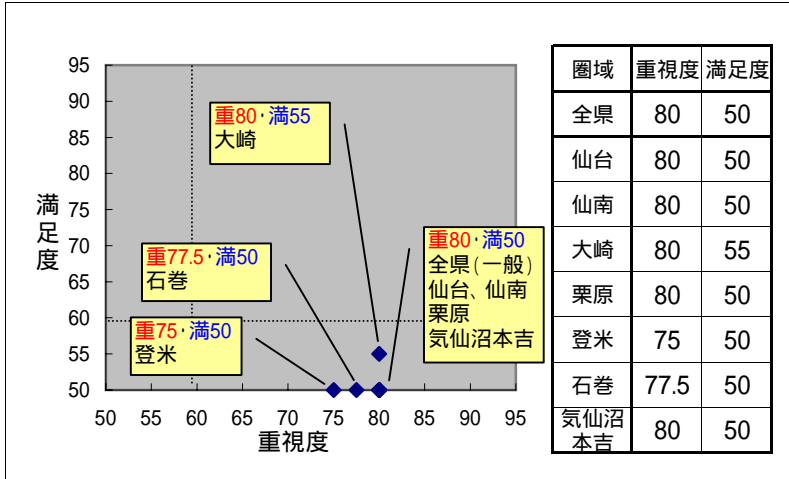
高関心度
「政策」の内容に対する関心の高さを示す数値であり、満足度調査の関心度に関する設問中「関心がある」、「ある程度関心がある」を選択した回答者の全回答者に対する割合

高認知度
「政策」の内容について知っている度合いの高さを示す数値であり、満足度調査の認知度に関する設問中「知っている」、「ある程度知っている」を選択した回答者の全回答者に対する割合

基本統計量

項目	重視度			満足度		
	一般	市町村	学識者	一般	市町村	学識者
中央値	80	70	80	50	55	55
第1四分位	-	-	-	40	50	50
第3四分位	-	-	-	60	60	65
四分偏差	-	-	-	10	5	7.5

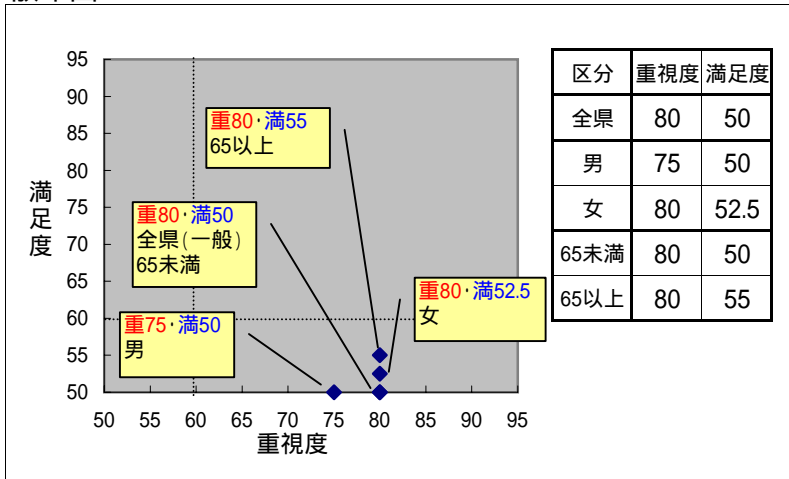
散布図



圏域別中央値(一般、市町村のみ)

圏域	重視度			満足度		
	一般	市町村	学識者	一般	市町村	学識者
仙台	80	70	-	50	60	-
仙南	80	70	-	50	50	-
大崎	80	70	-	55	60	-
栗原	80	70	-	50	50	-
登米	75	70	-	50	60	-
石巻	77.5	65	-	50	50	-
気仙沼本吉	80	70	-	50	50	-

散布図



男女別・年代別中央値(一般のみ)

区分	重視度			満足度		
	一般	市町村	学識者	一般	市町村	学識者
男	75	-	-	50	-	-
女	80	-	-	52.5	-	-
65未満	80	-	-	50	-	-
65以上	80	-	-	55	-	-

対象年度 H17

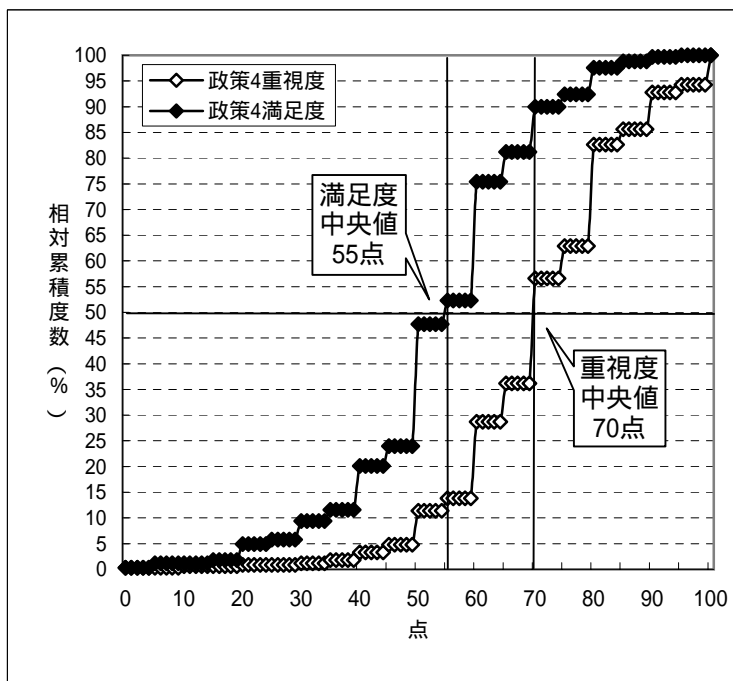
政策番号 1 - 1 - 4

政策名 誰もが暮らしやすいバリアフリー・ユニバーサルデザイン環境の整備

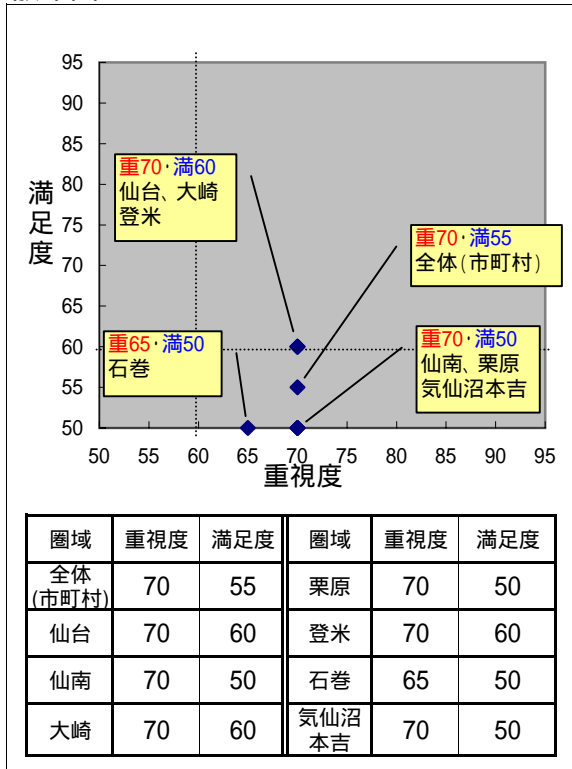
(2) 有識者(市町村職員)満足度調査結果

高関心度 79.4

高認知度 54.8



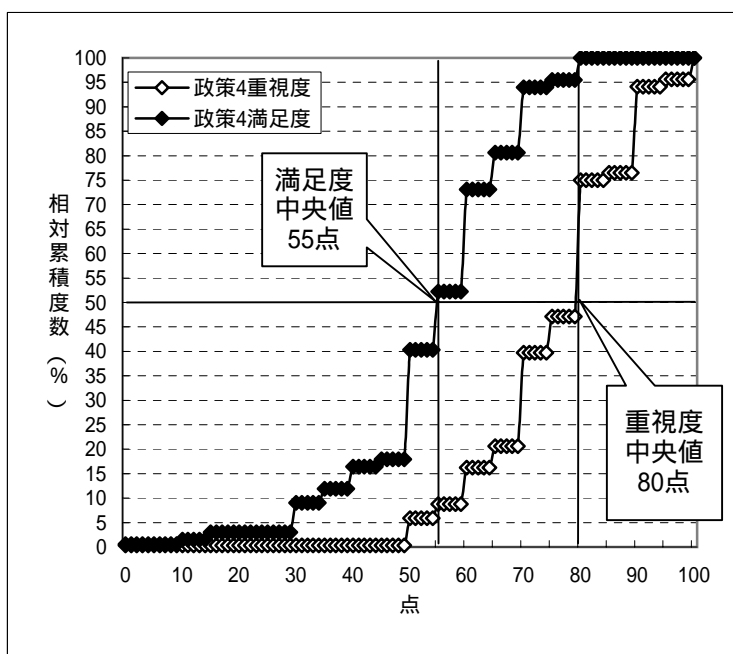
散布図



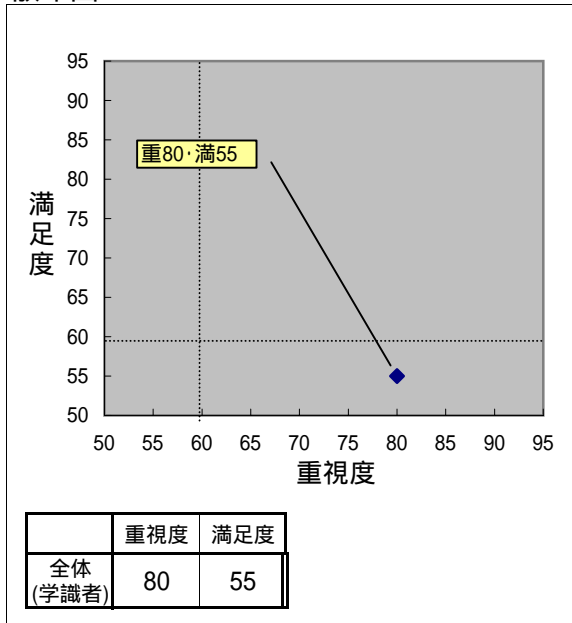
(3) 有識者(学識者)満足度調査結果

高関心度 91

高認知度 66.1



散布図

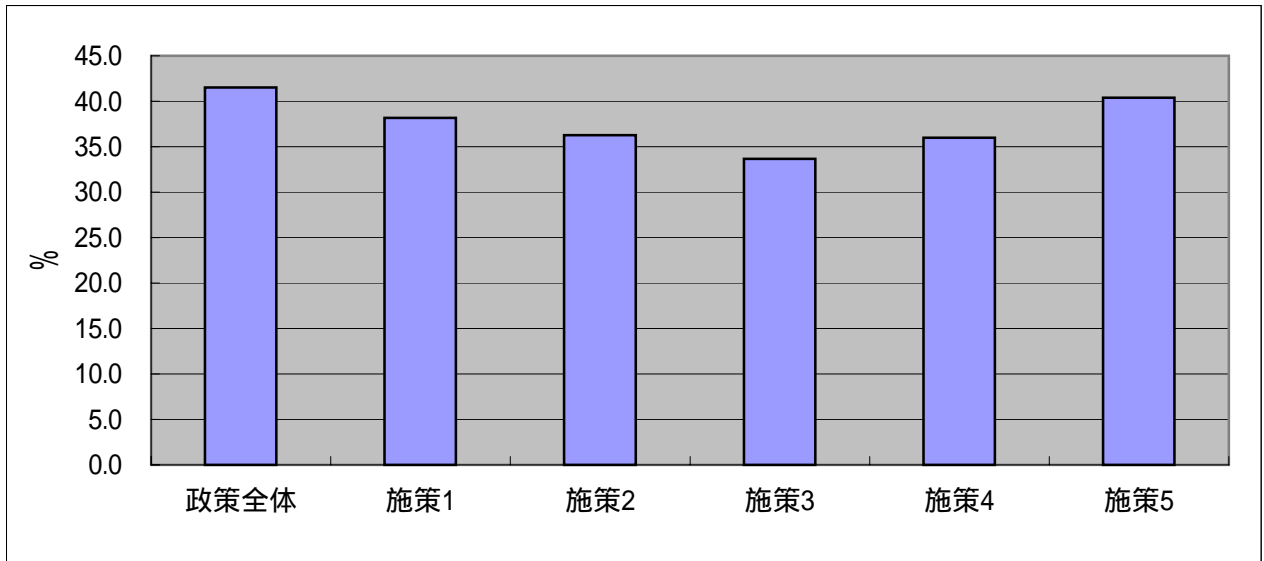


対象年度 H17

政策番号 1 - 1 - 4

政策名 誰もが暮らしやすいバリアフリー・ユニバーサルデザイン環境の整備

(6) 政策・施策満足度60点以上の回答者割合(一般県民、単位:%)



施策番号	施策名	第5回							
	政策全体	41.5							
施策1	バリアフリー・ユニバーサルデザインの意識啓発	38.2							
施策2	誰もが利用しやすい施設や道路等の整備	36.3							
施策3	誰もが利用しやすい情報の提供	33.7							
施策4	誰もが使いやすい製品づくり	36.0							
施策5	バリアフリー等を進める専門家、NPO、ボランティアの育成	40.4							